

【研究活動報告】

地域研究交流センター地域貢献事業（地域研究）

「保育の質の向上を促す保育マニュアルのデジタル化による AI 技術の導入と効果検証」

代表：人間福祉学部人間形成学科 林 康成

保育者には、専門性を高める研修が必要で、その充実が求められています。

本研究では、AI 基盤の対話型照会システムを保育者研修に導入するために、安全・衛生管理を中心とした保育マニュアルを形式化してデータ化して Google Notebook LM に取り入れた対話型照会システムを構築します。構築したシステムを保育者研修に導入することによって、保育現場における短時間研修の有効性と利便性を高め、保育の質向上を図ることを目指します。

本事業に関連する研究成果について、日本教育工学会において 9 月に発表を行いました。当日は、教育工学分野の研究者や教育実践者が多数参加する中、保育現場で用いられてきた紙媒体の保育マニュアルをデジタル化し、AI を活用して知識共有や学びを支援する取り組みについて報告しました。

発表後の質疑応答では、保育現場の実態に即した研究である点や、日常業務の中で自然に学びが生まれる設計である点について関心が寄せられました。また、AI 技術を保育・幼児教育分野にどのように位置づけ、現場の専門性向上に結び付けていくかについて、活発な意見交換が行われました。

こうした学会での議論を通して、研究成果の学術的意義だけでなく、実際の保育現場への応用可能性や地域への還元的重要性を再確認する機会となりました。

山梨県立大学
Yamanashi Prefectural University

保育者研修に対話型照会システムを導入するための 安全・衛生管理を中心とした保育マニュアルのデータ化

山梨県立大学 林 康成 朱 成敏

概要

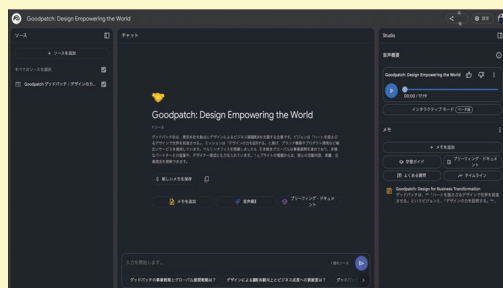
保育者には、専門性を高める研修が必要で、その充実が求められている。しかしながら、現在実施している研修に課題を感じている施設が9割弱となっている(コドモン 2025)。特に、安全・衛生管理面における保育マニュアル理解に取り組む研修の充実が求められている(コドモン 2025)。

本研究は、AI基盤の対話型照会システムを保育者研修に導入するために、安全・衛生管理を中心とした保育マニュアルを形式化してデータ化してGoogle Notebook LMに取り入れた対話型照会システムを構築する。構築したシステムを保育者研修に導入することによって、保育現場における短時間研修の有効性と利便性を高め、保育の質向上を図ることを目指す。

AIツールによる改善(Google Notebook LM)

保育マニュアルを“ノート”に入れておくと、その内容を根拠に要約・検索・質問応答・レポート作成まで行ってくれるGoogleのAIツール。必要な情報を会話形式で素早く引き出すことができる。

データ化した保育マニュアルをNotebook LM
に入れて対話型照会システムを構築



構築したシステムで短時間研修を実現
してマニュアル理解の有効性と利便性
を高める



保育の質向上を図る



保育者研修に対話型照会システムを構築するための保育マニュアルの課題

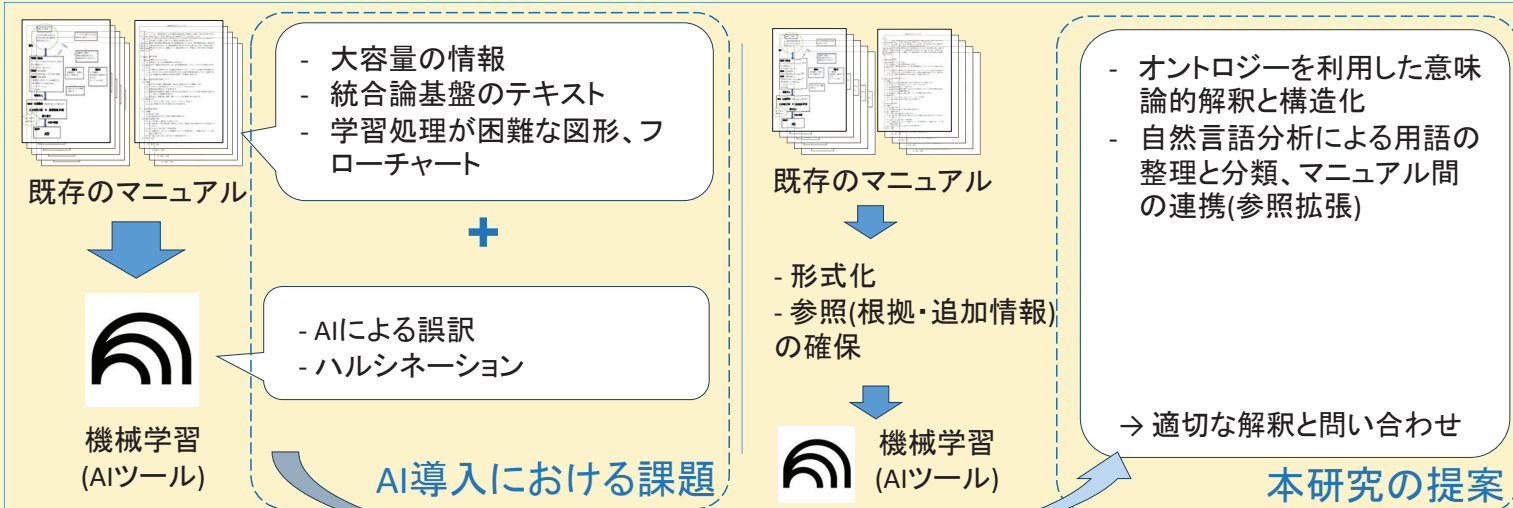
マニュアルの形式化とデータ化

明確な参照の確保と提示

問い合わせ手段の改善



AIツールの導入のためのオントロジーを用いた保育マニュアルのデータ化



短時間研修を実現し、保育者のマニュアル理解を促進する

保育マニュアルのデータ化により、明確な参照の確保と提示が可能となり、問い合わせ手段の改善につながる



今後の展望

構築した対話型照会システムを活用した保育者研修を実施して、その研修効果を検証する。研修を受けた保育者に対し、約5分の事前・事後アンケート、約10～15分の時間枠で半構造化面接の形式のインタビューを行う。